

令和元年度 岩国市立美和西小学校 学校評価書

校長(池本武志)

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題						
<p>本年度は、「学力向上」と「主体性の育成」の2本柱を重点目標として取り組みたい。</p> <p>学力向上においては、「全国レベルの学力をつける」ことをめざす。そのため、「学力向上プロジェクトチーム」を中心にして、基礎的な知識・技能の定着を図る習熟の時間（スキルアップタイム）を日課表に位置づけ、児童の集中力を高めた工夫をしたい。校内研修では、小中一貫教育テーマを設定し、9年間で児童の言語能力・情報活用能力をさらに高めるようにしたい。</p> <p>主体性の育成においては、「チャレンジする意欲と失敗を乗り越える力を高める」ことをめざす。そのため、「心力・体力向上プロジェクトチーム」を中心にして、特活、総合、行事を軸に取り組み、児童が課題を見つけ話し合っ解決していく体験を通して「主体性」や「自己肯定感」を高めていきたい。また、異年齢交流を促進したい。異年齢交流は人間関係づくりや自己有効感を高めるためにも有効であるので、異学年交流、小中・小小交流、異年齢交流を積極的に取り入れた学習や体験に取り組んでいきたい。</p> <p>人材育成においては、教職員のベテランと若手のバランスのよさを生かして、全校体制で若手の人材育成に取り組んでいきたい。特に、「学力向上」「主体性の育成」を目指した授業作りや、校務分掌プロジェクトの取組を通して、教職員の資質向上を図りたい。</p> <p>業務改善においては、日課表の見直し、ICTの活用、地域の人材活用を通して、残業時間の削減を目指したい。また、企画会議を業務改善会議として定着させて、諸課題解決に向けて取り組んでいきたい。</p>						
4 自己評価						
評価領域	重点目標	具体的方策 (教育活動)	評価基準	取組状況および成果・課題	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析
教育課程・学習指導	読解・漢字・計算で平均8割の定着を図る。	○知識・技能の定着を図るモジュール学習をする。 ○わかる授業をする。	○確認問題で山口県平均と同程度である。(○) ○学期末テスト、漢字計算大会で定着率が平均8割以上である。 ○わかる授業についての児童の肯定的授業評価が8割以上である。 ○2学期からモジュール学習を行った。(○)	○モジュール学習は、2学期に土堂小学校を訪問して学んだことを生かすことができた。 ○年度途中からはあったが定着してきた。学年のつながりを考えた計画、定着度の評価、フラッシュカードの作成時間などの課題がある。 ○わかる授業をめざして、公開授業、交換授業など互見授業を教員主導で行うことができた。	4	全学調等の結果は県平均と同程度で昨年度と変わってなく、点数としての成果としてはまだ表れていない。 しかし、説明する力は着実についており、考えの根拠を示して話すことができるようになってきた。 また、モジュール学習を始めたことや、言語能力育成を目指した授業を中学校区で取り組み始めたことは、今後の学力向上に期待できる。 さらに、全教員が目標を共有して、主体的に取り組んでいることは評価したい。
	目的に応じて、説明・表現できる力を高める。	○言葉を大切に指導と場の工夫をする。 ○表現力をつける授業をする。	○言語能力系統表を作成した。(○) ○児童が説明する場を授業に位置づけた。(○)	○小中一貫教育9年間で育みたい言語能力育成カリキュラムを作成した。また、言語能力の育成をめざした校内研修を小中合同で取り組むことができた。 ○言語能力の評価を明確にして、能力の育成に生かすことが課題である。 ○授業で児童が自分の考えたことを説明する場を設けて、継続して取り組んだ。また、チャレンジフェスタや委員会発表などで、めあてをもたせて発表させた。		
	意欲の基盤となる自己肯定感を高める。	○目標をもたせ、よさや成長を認める場を作る。	○個々の取組を随時および学期末に評価した。(○) ○目標をもって努力している児童が8割以上である。(○) ○自己肯定感の自己評価が昨年度より上がった。(△)	○学期はじめ、終わりの式で、代表児童に目標、振り返りを発表させた。 ○行事や特別活動に取り組む始めに、目標をもたせ、取組の途中と終わりで評価させた。 ○成長を具体的にほめる(教師・児童相互)評価をできるだけ多くの視点を持つことが課題である。		
生徒指導	自ら課題を解決していく力を高める。	○よりよい学級・学校・地域をめざした特活・総合に取り組ませる。 ○取組の経過や成果を表現させる場を作る。	○学級をよりよくするために話し合ったと評価する児童が8割以上である。(○) ○課題解決的な特活・総合の計画を立てて取り組めたという教職員が8割以上である。(○) ○委員会の児童が全校朝会などで発表するなど、多人数の前で発表できた。(○)	○課題解決的な「総合的な学習の時間」の計画ができた。 ○学校生活で課題があると思われることを学級で話した後、代表委員会に持ち寄って、全校で「廊下歩行に気をつけること」を決めた。 ○取組後の評価と改善をさせることが課題である。 ○チャレンジフェスタで、総合学習の成果を発表することができた。 ○自ら課題を見つけて解決させることが課題である。	3	目標をもたせること、目標に対して振り返りをさせることは定着してきた。そのため、他者との比較での評価ではなく、自分の目標設定に対する評価ができるようになってきた。 総合的な学習の時間では、体験を通して気づいた課題について、解決方法を探るといった探究的な学習計画ができた。 また、特別活動においても課題解決的な取組ができるようになってきた。 適切な場を与えれば、主体的に課題解決に取り組める児童であることが、実践から見えてきた。 しかし、児童の自己肯定感が高まっているのは、自ら課題を見つけ解決しようとする主体性を、十分に発揮できていないことが、理由の一つと考えられる。 成長の見取りと肯定的評価、主体的な課題解決の場、異年齢集団による協働した課題解決などに、計画的、継続的に取り組む必要がある。
	よりよい人間関係を作っていく態度を育む。	○人間関係を学ぶ体験の場(他校・異年齢交流)を作る。 ○体験したことを道徳科で関連させて考えさせる。	○いじめはゆるさないという児童が8割以上いる。(○) ○あいさつ・くつろえを自分から取り組む児童が8割以上いる。あいさつ(○)くつろえ(△) ○助け合っ活動できる児童が8割以上いる。(○)	○休み時間は異学年で遊ぶことが多かった。 ○美和東小学校と従来の交流学習や社会見学に加えて、3年生が合同で総合の学習をした。また、米軍基地の小学生と交流会をした。 ○計画的な異年齢交流が今後の課題である。また、交流体験を生かした道徳科の計画も課題である。		
	基本的な生活習慣を身につける。	○家庭学習・生活習慣シートを家庭と情報共有する。 ○PTAから生活習慣改善の情報を発信する。	○家庭学習提出率が平均8割以上である。(△) ○就寝時間に課題のある児童が5割以上改善した。(△) ○PTAが主体になって生活習慣等に関する提言をすることができた。	○家庭学習・生活習慣シートに継続して取り組むことができた。 ○シートを通してわかる問題点を、学校・保護者・児童で速やかに共有することが課題である。 ○学校保健安全委員会への保護者参加は多くなった。PTAが主導した取組とすることが課題である。		
家庭・地域との連携	地域で言葉に親しむ運動を推進する。	○ノーテレビ・ノーゲーム週間で、美和地区全体で取り組む。 ○地域主体で言葉に親しむ活動を企画する。	○地域が主体になって「言葉に親しむ運動」の企画をすることができた。 ○保護者・地域と連携した活動を学校だよりやホームページ等で公開することができた。(○)	○校内研修に学校運営協議会委員が参加した「ユニット型研修」を行い、地域で言語能力の育成に取り組むことを確認した。地域ボランティアの「読み聞かせ」で児童に感想を言わせる取組が始まった。 ○地域で新たな活動を始めるには困難が伴うので、今行っている行事等の取組を生かすことが課題である。	3	今年度の目標に対する成果は十分なものではなかったが、学校や地域の課題を保護者・地域が理解して、解決に向けて支援してくださった。 児童数減が急速に進む中、PTAの在り方等について、今後、小中合同で協議して変えていく必要がある。
	元気で学び続ける教職員であり続ける。	○業務の効率化・協働体制により残業時間を削減する。 ○全校体制で人材育成に取り組む。	○前年比で残業時間10%削減ができた。(○) ○行事の準備や練習の時間を2割程度以上削減できた。 ○諸課題をチームで対応することができたと自己評価する教職員が8割以上いる。(○) ○校内研修に充実を感じる教職員が8割以上いる。(○) ○互見授業など、他の教員に評価してもらった授業を学期に2回以上、行うことができた。(○)	○1時間目の前の朝学習の時間をやめ、下校を20分早めた。 ○また、行事や集会の見直しをして、時間削減をした。 ○計画的な取組をすることで練習時間をさらに削減したい。 ○互いに見合い、切磋琢磨して研修に取り組んだ。		
6 学校評価総括(取組の成果と課題)						
<p>「学力向上」においては、学力調査のテストでは昨年度と変化は見られなかった。説明する力は着実に付いてきていることは、アンケート結果等から見て取れる。基礎的な知識・技能の習熟において、モジュール学習指導のために先進校の視察や互見授業等を行った。11月以降は軌道に乗ってきて、児童の集中力や学習意欲が高まってきた。教師の指導力をさらに高めると共に、取組状況を保護者・地域に授業公開等を通して周知することが課題である。目的に応じた表現力は、研究授業等を通して昨年度から取り組んでおり、本年度は小中一貫で取り組むことができた。授業で説明することはできるようになってきたが、説明したことをもとに、深い理解につなげていくことが課題である。</p> <p>「主体性の育成」においては、めあてや目標を持たせ、取組後の評価をさせる、ということが、日々の授業、行事、特活で定着してきた。総合的な学習の時間においては課題解決的な計画を全ての学年で作成することができた。今後は、小中一貫で課題解決的な計画を作成すること、特別活動をさらに課題解決的なものにするのが課題である。</p> <p>「家庭・地域との連携」では、授業や行事等への参加者は増加したが、特に保護者の学校経営への参画はあまり改善されなかった。コミュニティの高齢化が進む中、保護者のコミュニティ・スクールへの参画を推進することが課題である。</p> <p>「人材育成・業務改善」では、協働性と研究意欲のある教職員集団が育っている。業務改善においては、教育課程の見直しなどに取り組む、改善が見られた。しかし、学級経営で躓く教員がいるなど、若手人材育成における課題が見られた。学校の努力だけでは限界があるので、保護者・地域の参画を得ながら働き方改革を進めることが必要である。</p>						
7 次年度への改善策						
<p>「学力向上」においては、モジュール学習を教育課程に位置づけ、授業時数を大幅に超えないように計画的に取り組むと共に、集中力を高めて鍛える様子を保護者・地域に公開していきたい。また、小中一貫校として合同の授業研究を通して、発達段階ごとに必要な言語能力を育む授業はどうあるべきかを研修し「主体的・対話的で深い学び」のある授業を目指したい。</p> <p>「主体性の育成」においては、課題解決的な生活科、総合的な学習、特別活動を見直し計画に取り組むことを通して、児童が主体的に課題を見出し、解決して取り組んでいく学習経験を積ませたい。こうした自己解決力を高めることが、自己肯定感を高めることにつながるだろう。</p> <p>「家庭・地域との連携」においては、例えば「児童の安心安全な通学」を共通の課題として、保護者・地域の意見を聞きながら、協働して課題解決することを通して、参画意識を高めたい。</p> <p>「人材育成・業務改善」においては、行事の練習時間、準備時間、余剰時間の見直し等、教育課程の見直しを進める。また、留守番電話、校納金の口座振替などの環境整備を進めたい。若手の育成は喫緊の課題である。この課題についても、小中、保護者・地域、等と連携して取り組みたい。</p>						

5 学校関係者評価

学校関係者からの
意見・要望等(次年度に向けて)

評価

モジュール学習とはどのようなものなのか説明ではよくわからなかった。目的や成果を含めて、授業公開などを通して、広く周知することが必要であろう。

読み聞かせで児童に感想を聞いたところ、全員がそれぞれ違った視点で感想を述べていることができていた。説明する力が付いてきていると感じた。

成果はこれからであろうが、継続すると共に、評価をしながら改善していかたい。

4

生活反省カードを生かして取り組まれているが、保護者の意識に開きがあるのか、成果が出ていないのが残念である。

児童アンケートでは、異学年交流をする希望が多くある。新たな行事や児童集会を入れることは難しいであろうから、今している取組を工夫して異学年交流を取り入れてはいかかか。

3

学校に様々な形で支援をしていきたいが、学校がすべきこと、保護者・地域でもよいこと、保護者・地域がすべきことを出し合うことが必要。

出し合った中から、学校で抽出して、保護者・地域に知らせるとよい。保護者・地域にはその中から、できること、できないことを選んでもらうとよいのではないかと。

3

現状ではこれ以上残業削減は難しいのではないかと。

学校運営協議会で、教員の負担軽減を図り、残業時間を削減するために、保護者、地域で何ができるのか協議していかたい。

4